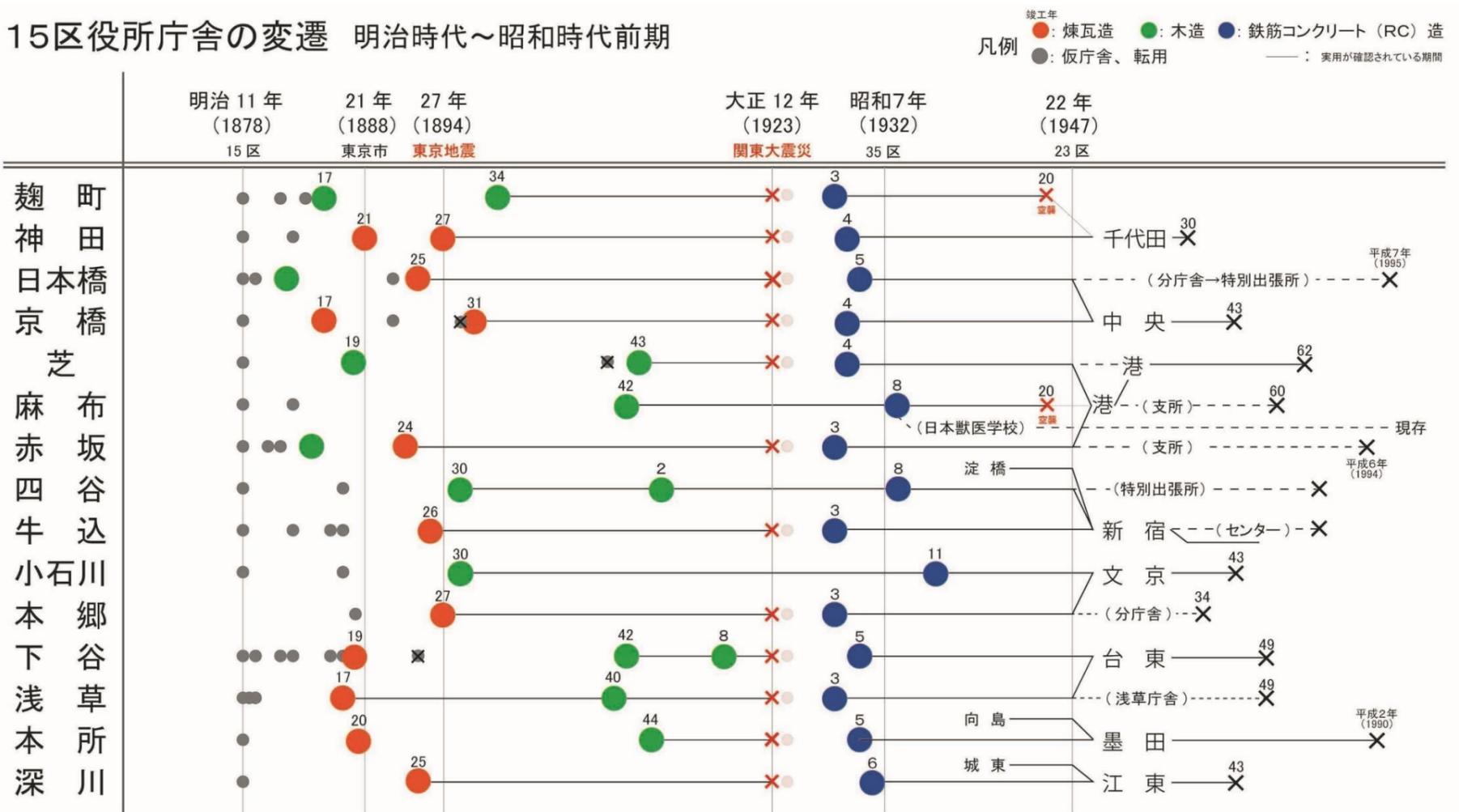


# 関東大震災と復興区役所庁舎

15区役所庁舎の変遷 明治時代～昭和時代前期



【参考文献】 山崎鯛介・今野希美「明治期の東京市に建設された煉瓦造の区庁舎：明治・大正期に建設された東京市の区庁舎の特徴（その1）」日本建築学会『建築歴史・意匠（2013）』学術講演会梗概集, pp. 887-888, 2013、今野希美・山崎鯛介「明治・大正期の東京市に建設された洋風木造の区庁舎：明治・大正期に建設された東京市の区庁舎の特徴（その2）」日本建築学会『建築歴史・意匠（2013）』学術講演会梗概集, pp. 889-890, 2013、東京都編『東京都戦災誌』1953、森巖登「戦時下の戸籍管理 旧東京市部の事例」『レコード・マネジメント No. 68』pp.63~79, 2015 ほか

大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災は、首都東京に大きな被害をもたらしました。区役所庁舎も例外ではなく、12区(麹町・神田・日本橋・京橋・芝・赤坂・牛込・本郷・下谷・浅草・本所・深川)の庁舎が焼失あるいは倒壊しました。

東京市は、この12区の庁舎を『震災復旧事業』の一環として建て直すことにしました。

さらに被害がなかった3区(麻布・四谷・小石川)についても、昭和8年(1933)以降に建て替えられました。

いずれも、東京市により設計され、耐震性の高い鉄筋コンクリート(RC)造の庁舎に建て替えられました。